

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500058		
法人名	社会福祉法人 値賀の里		
事業所名	グループホーム 暖家		
所在地	長崎県北松浦郡小値賀町笛吹郷2698-1		
自己評価作成日	令和4年10月10日	外部評価結果確定日	令和5年2月13日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホールは天井が高く開放的な造りになっている。玄関を出ると目の前には青い海が広がり、佐世保や福岡を結ぶフェリーが港を出入りする様子も見られる。遠くに五島列島の島々を望め、美しい朝日を拝むことも出来る。  
基本理念である『笑顔のたえない楽しく暖かい家』を念頭に置き、その実現に向けて職員は協力し努力している。  
地域柄、ご利用者様、ご家族、地域の方、職員が知り合いや顔馴染みであることが多く、親しみやすい雰囲気となっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvsvoCd=4291500058-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvsvoCd=4291500058-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年11月12日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

暖家では理念に基づきご利用者様との意思疎通を大事にしており、表情、ジェスチャー、頷きなどを読取りながら、希望を把握するようにしている。先天性のろうあ者の方へのコミュニケーションツールとして、イラストを通して避難訓練に活かしている点や認知症の方に、行動不安を軽減する為の文言を共有スペースに掲示して、ご利用者様の落ち着きに寄与している点を評価する。  
毎朝蒸しタオルで清拭をして下着交換をしており、途中排泄の失敗時やおむつ交換時においても蒸しタオルで清拭をして、ご利用者様に配慮ある支援で清潔を心掛けている点を評価する。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍で実践できていないところもあるが、笑顔で楽しく過ごして頂けるよう心掛けている。	理念の作成については、暖家が開設する当時の職員と話し合い、他のグループホームの理念を参考に作成している。コロナ禍になってご利用者様とのふれあいが減少しているが、職員は理念を念頭に置き、笑顔で接して言葉遣いに気を付ける、レクリエーション時に一緒に歌う、日差しが暖かい時は庭で日向ぼっこをすることを実践している。また、理念は毎朝朝礼後に職員全員で唱和し、職員全員に理念が浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で面会制限、外出自粛が続いているため日常的な交流は難しい状況にある。	コロナ禍前の敬老会は地域全体で行われていたが、現在は暖家単独で行っている。自治会に加入していないものの、小値賀町の広報誌や行政議会の報告は近くの民生委員の方が届けてくれるので地域との繋がりはこれまで通り続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室などの地域貢献は出来ていない。相談があればアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議もコロナ禍で書面開催が続いている。一方的な報告にならないよう意見書と返信用封筒を同封しているが、返信はほぼない。もう少し返信しやすい工夫が必要だと考えている。	現在対面での運営推進会議は開催されていないが、メンバーに行政、近隣代表に加えてボランティアの方にも入ってもらい、意見をお願いしている。コロナウィルス終息後は、対面での運営推進会議を開催して活発な意見、要望を聞き入れて、運営に繋げたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情や取り組みは運営推進会議での報告が主となっている。相談や問い合わせにはすぐに対応して頂いている。	小値賀町の担当者がおり、介護保険の更新や書類提出はスムーズに行われ、良好な関係である。法人全体のだよりを作成している。一部に「暖家だより」が掲載されており、暖家の状況は、常に行政に伝える事ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4か月に1度、身体拘束・虐待防止委員会を開催し、事例を用いて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	今まで身体拘束の事例はないが、4か月に1度身体拘束、虐待防止委員会を開催し、事例を用いて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ご利用者様の外出癖や行動について、ご利用者様が理解できるような文言を共有スペースに掲示し事故防止を促している。現在2名の方がベッドから立ち上がる時に転倒するおそれがあり、ご家族の了解を得て、事故防止センサーマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会において、どのような行為が虐待になるかを確認し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に面談や見学をして頂き、不安が軽減できるように努めている。契約時には重要事項説明書などの書類を用いて説明し、納得・理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族会は書面開催、面会も制限されているため意見や要望を表せる機会は減少している。ケアプラン更新時に意見書を同封し返信して頂いたり、暖家だよりで意見を出して頂くよう働きかけている。	法人本部の「値賀の里だより」の他にご利用者様別に写真を掲載して、「暖家だより」を発行している。内容としては、当月のご利用者様の様子、行事の報告及び預り金の精算等を報告している。ケアプラン更新時には書面で意見や要望を収集する努力をしている。以前は法人全体として「家族会」を開催しご利用者同士の意見交換があり、暖家としてもいろんな意見を取り入れていたが、書面により意見を求めるようになって、意見や要望が極端に減少している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や処遇会議を開催した際、意見を聞くよう努めている。	毎月25日の職員会議では、議案について、職員に対してより分かりやすく説明し、意見が出やすいようにしている。職員からの提案では、夏祭りに使用するかき氷機、綿あめ機の購入やベッドの位置変更、リクライニングが出来るベッドに交換などを採用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有する資格に応じた手当や、残業手当が付いている。勤務希望や有給申請が出しやすいよう気を付けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により島外の研修会へ参加できなくなっている、オンラインでの研修は養寿園と一緒に参加することがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流は自粛している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談や施設見学で少しでも不安が軽減されるよう努めている。入所後は笑顔で接し、困ったことや不安に思うことを言いやすい雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談時や電話があった時などに要望や不安に思うことを聞いている。入所後は暖家だより等で様子を伝え安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービスを必要としているか話を聞き、暖家で出来る事と出来ない事があることを説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自室や洗面台の掃除、洗濯物を干したりたんだりといった家事を出来る範囲で手伝って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会が制限され、自宅への外出や外泊も出来ない状況だが、暖家だよりで様子を報告したりテレビ電話で会話したり、関わりを持って頂いている。ドライブの途中でお墓に寄ることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限、外出自粛が続いているため馴染みの人に会ったり、出掛けることが困難になっている。	コロナ禍前では、町の行事や学校の行事に参加して、地域の方々との交流はあったが、現在は感染拡大を防止する為自粛している。しかし、密になる事を防止しながら、利用者様のお墓や自宅の近くまでドライブして、地域との関係性を断ち切らないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の相性を考慮し、食事の席やドライブの順序を決めている。レクリエーションや家事を行う際、ご利用者様同士で出来ないところをフォローし合っている様子が見られる。職員はトラブルが起きないよう気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても同じ地域の住民としての関係は続くため、会えば挨拶を交わしたり、近況を尋ねたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様同士や職員との会話から希望を把握したり、行動や表情から汲み取るよう努めている。	認知症の症状を呈しているご利用者様がほとんどであるため、ご家族からの情報や、入所後にご利用者様との関わりの中で得られた情報を基にして意向の把握に努めている。また意思表示が難しいご利用者様については表情の変化や顔つき、仕草等非言語的な部分に着目して、試行錯誤しながら希望に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族、在宅のケアマネ等から生活歴や暮らし方、サービス利用の経過を伺っている。ショートステイ利用時の様子は養寿園の職員から聞き把握に努めている。暖家の職員に知り合いがいる場合もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を介護支援経過や各種チェック表、申し送りノートで共有し把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の担当者がモニタリングし、全員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。会議にご家族は参加されないが意見書を提出して頂いている。	ご利用者様がこれまで営んできた生活を可能な限り継続して、暖家でも送ることができる部分に着眼点を置いて介護計画作成にあたっている。基本的にご利用者様の担当職員が計画等に対する3カ月毎の経過観察を作成して、定期的な見直しを行う機会がある。職員間やご家族からの希望等で計画書の変更があった例として、食事の際、水分にむせやすくトロミを使うことを統一事項とした例と、ご家族から家事をどんどんさせてほしいということで、ご利用者様に同意の上で、洗濯物を干す、たたむ、食事を下膳する、モップで掃除する、洗面所を掃除する、これらの内容を計画に立案してご利用者様の安全安心、生きがい作りに即した支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、各種チェック表、申し送りノートを活用し、現状把握・共有しながら実践や介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	島外の病院を受診する際、港まで送迎したり、時には病院まで同行している。コロナ禍以前は冠婚葬祭への付き添いも行っていた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	踊りや演奏などのボランティア受け入れ楽しんで頂いていたが、コロナ禍で実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>医療機関は島内に1か所しかないため入所後も主治医は変わらず、継続して診て頂けている。必要に応じて整形外科や循環器内科等の専門外来を受診している。診察の結果は暖家だよりや電話で報告している。</p>	<p>暖家の所在する地域に医療機関は1か所のみであるため、主治医の変更もなく入所後の受診も円滑にできているとのことであった。受診時に認知症の症状等も職員から主治医に伝えて内服薬の変更や、時に精神科の受診に繋がることもあるとのこと。また夜間急変時の対応も柔軟に受け入れてくれるため、ご利用者様、ご家族、暖家にとっても安心材料となっている。受診後の結果について、特に通常と変わりなければ毎月ご家族に送付している暖家だよりにて説明したり、内服や治療内容の変更等、早めに伝えておいた方がいいことは電話で伝えるようにしている。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>暖家には看護師がいないため体調が変化した場合は診療所に連絡し、早めに受診している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>診療所の医師や看護師から病状や状況、退院の目途のついてなど情報を得ており、退院後の注意点などの指示も受けている。島外の医療機関に入院した場合はSWと電話やFAXで連絡を取り合っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	暖家には看護師がおらず医療行為が出来ない事を入所時に説明している。	ご利用者様の入所の際に、重度化した際や看取り期に入った際のご意向を確認するようにしている。暖家として意向として受容するが、実際に看取り期に入る状況になると、一旦、主治医からご家族に説明を加えてもらい、最終的な判断を行うこととしている。また重度化については希望に沿うと共に、同一法人に介護施設があることも説明して、施設の整備面の説明等を加えて、最終的な判断はご利用者様やご家族に委ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	町内で2022年から年2回普通救命講習が実施されており、全職員が受講する計画になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	夜間を想定した避難訓練をご利用者様と一緒に年2回実施している。地域の方との合同訓練はコロナ禍のため中断しているが協力体制は築いている。毎日火気関係のチェックや戸締りの確認を行っている。	火災を想定した避難訓練や、発生し得る自然災害を想定した訓練の一連の様子を確認した。火災発生を想定した訓練に関して、新型コロナウイルス感染拡大の影響で地域住民と一緒にすることはできないが、同一法人の事業所と合同で訓練を実施している。また、自然災害に係る訓練は、台風接近を想定した座学訓練から開始して、徐々に行動を伴った訓練に展開していくとのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調にならないよう、ご利用者様の思いをそのまま受け入れ否定しないよう、入浴や排泄の場面では羞恥心にも配慮した声掛けを心掛けている。	ご利用者様お一人おひとりの尊重に関して、まず理念に則った支援を行うことから始めて、あとは実務の中で適切な関わり方や言葉かけができるように管理者が気がけている。また、理事長は人格を尊重する支援とは職員の言葉や、ちょっとした振る舞いに反映されると考えているため、機会あるごとに繰り返し思いを伝えている。職員の言葉かけが適切でない場合は個別又は会議の場で注意喚起を促している。逆にご利用者様にとって適切な言葉掛けや関わりがあった場合は褒めたたえて、職員のモチベーションアップに努めている。	プライバシーの確保の観点から、広報誌等に個人を特定できる写真等を使う場合の使用同意書を交わしておくことが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表しやすいような声掛けや、待つ姿勢で自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間になれば声掛けはしているが、起床や就寝、食事の時間など出来る限り一人ひとりのペースに合わせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を自分で選べる方はご本人に任せ、困難な場合はその方らしい服装を職員が選ぶようにしている。行きつけの美容室に出掛けられるよう支援していたが、コロナ禍で出来なくなった。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元で採れた旬の野菜や海産物をメニューに取り入れたり、外にテーブルを出し海を眺めながら食事をしたり楽しめる工夫をしている。ゴマをすったり、空豆をさやから出したり、下膳は出来る方が行っている。	暖家の方針として、可能な限り地元の野菜や海産物を用いた手作りの料理を1年通して提供している。ご利用者様の中には家事をできるだけやりたいというご希望のある方もいるため、希望に応じて一緒に下ごしらえをしてもらい、楽しみや生きがいを見出している。ご利用者様が皮むき等してくれた料理を提供する際は、一言伝えて感謝の気持ちを表している。ご利用者様が楽しみにしているお弁当を持っての外出をしたいところだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でできていないので、状況を見ながら再開したいとのことであった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月5日に体重測定を実施している。食事摂取量、水分摂取量はチェック表を用いて把握している。不足している場合は好みの物を個別に用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。ご利用者様の状況に応じて口腔ケアスポンジやウエットティッシュ等使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付けることでパターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。	排せつのパターンはそれぞれであるため、新しく入所したご利用者様は特に注意深く排せつの状況を確認して、職員間で情報交換しながら様々な支援を試みている。終日オムツを着用しているご利用者様が2名いるとのことであったが、下剤内服後は様子を見ながらトイレ誘導しているとのことであった。また便秘にならないよう、水分を多めに摂取してもらうよう促したり、お昼ご飯前に暖家の中を歩く習慣を付けたりしている。暖家では毎朝、ご利用者様に温かい清拭タオルを提供して保清に努めている。オムツ着用の方はプラスαで清拭する等、皮膚の疾患予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分量が1000ml以上になるよう食事以外でもこまめに勧めている。昼食前に歩行訓練や体操を行い便秘の予防に努めている。医師に相談し下剤での調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっている。浴室や脱衣所の温度調整、入る順番を考慮し、同性が介助したり、背中側に立つようにして羞恥心にも配慮している。正月はゆずを浮かべ楽しんで頂く工夫もしている。	入浴は基本的に週に2回としている。ご利用者様からの希望があれば、随時検討している。またご利用者様を急かさないように午後から約3名ずつ対応してゆっくり会話しながら対応している。ご利用者様の入浴に対する要望に可能な限り応えるため、一番風呂が好きな方への対応や、湯加減を都度調整している。また、入浴拒否があるご利用者様には無理強いせず、自然と誘導して本人の意思を尊重しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は自宅から使い慣れた物を持って来て頂いている。日中も自由に自室で休んで頂いているが、昼夜逆転しないようレクや日光浴への参加も促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をまとめてファイルし、薬の種類や用法・用量がすぐに確認できるようにしている。薬の変更、臨時薬の処方があった場合は申し送りノートに記入し、周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課だったお墓やお寺のお参りは外出自粛により中止している。レクや日光浴、ドライブで気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は自粛している。ドライブに出掛けたり、玄関先で日光浴することで少しでも閉塞感が解消できるよう支援している。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、このところ積極的に外出ができていないのが、暖家としてご利用様に申し訳ないとのことであった。特にお寺やお墓、ご自宅に出向くことを続けていただいただけに残念さはよく伝わってきた。暖家として全く外出していないわけではなく、気候の良い時は玄関前の安全なスペースで外気浴や日光浴をして気分転換を図っている。車椅子のご利用者様も意向を確認しながら、職員と一緒に敷地内ではあるが、ちょっとした散歩を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前はご自身で管理、使用している方も現在は事務所で管理している。買い物にも出掛けていたがコロナ禍で出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは行っていないが、贈り物が届いた時や希望時に電話を掛けたり、テレビ電話で顔を見ながら会話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天井が高く開放感がある。クリスマスツリーや雛人形など季節の物を飾ったり、ご利用者様が作成した季節の壁飾りを掲示することで会話が弾んでいる。	日中、ご利用者様はほとんどホールで過ごされるため、新型コロナウイルス感染防止策として通気・換気に一番注意しているとのことであった。加えてホール内の温度、湿度、匂いに注意を払いながら職員が管理をしている。最近、職員の提案の下、ホールのテレビやソファの位置を変更した。ご利用者様の介助を行う際に、安全性を優先して実施したとのことであった。ホール内には季節を感じさせる飾りつけを行っていて、ご利用者様や職員が共同で制作したものとのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とソファに座って会話したり、少し離れて椅子に座ったり、思い思いに過ごされている。玄関のベンチから海や五島の島々を眺められるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で使用していた馴染みのある寝具や家具を持って来て頂いている。家族の写真などを飾ったり、御位牌を持って来られた方には毎朝お茶や御仏飯を上げれるよう支援している。	居室への持ち込みは安全が損なわれない限り自由にできる。お位牌に関してはお茶やご仏飯をご利用様に取りに来てもらったり、場合によっては職員が交換をするような配慮をしている。また、ご家族から届いた写真を居室内に貼ったり、暖家で行った誕生日会の際の色紙を飾ったり、ご利用様の希望に応じて対応している。耳が遠い、また、短期記憶を保持できないご利用様が安心して生活できるように、不安を払しょくするような張り紙が数枚貼ってあった。ご利用様にとっては安心して生活できる工夫の1つと感じた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じてセンサーマットやポータブルトイレを設置し、転倒を予防している。食卓の椅子は2種類用意し、状態に応じて使い分けしている。居室の入り口に表札を掛けているが見にくい場合は高さを調節したり、張り紙で対応している。		